

# 情報・データサイエンス・AI パッケージ 自己点検・評価報告書 (令和 2 年度実施分)

教育本部全学教育統括部  
情報教育・データリテラシー部門

## 0. 総評

- 令和 2 年度より、情報・データサイエンス・AI パッケージの全学的な実施体制を整え、リテラシーレベルで情報と数理、データサイエンス、および AI を広くカバーする教育を開始した。
- 令和 2 年度前期は新型コロナウイルス感染防止のため授業の実施方法を急に変更した等もあり、オンライン対応が不十分であった等の課題が生じている。特に、学生同士や教員との議論の機会を増やす必要性は、授業評価アンケートや研究論文で指摘されており、これの改善が次年度に向けた大きな課題である。

## 1. 「学内からの視点」における自己点検・評価

- 情報・データサイエンス・AI パッケージは令和 2 年度が実施初年度であり、前年度との直接の比較はできないため、全学平均と比較することで、自己点検・評価を行う。
- 学生による授業評価アンケートで、「教員は学生の質問や相談に適切に対応していましたか」等の項目は全学平均を上回っているが、本パッケージの授業が全学平均から 0.4 ポイント以上下回っている項目として、以下がある。  
「質問や発言などにより、授業に積極的に参加しましたか。」(第 1、第 2 ターム)  
「学生同士や教員と議論したりプレゼンテーションをしたりする機会がありましたか。」(第 1、第 2 ターム)  
「授業から知的な刺激を受けて、その分野や関連分野のことをもっと知りたいと思いましたか。」(第 1 ターム)
- 第 1 タームより第 2 タームの方が、項目数は減っており、ターム毎の改善はなされているが、次年度に向け、学生の質問や発言、学生同士や教員と議論する機会を増やすことを改善計画とする。
- 次年度以降、本パッケージをほぼ全ての学部で必修、および選択必修とすることで履修率を向上させる計画としている。

## 2. 「学外からの視点」における自己点検・評価

- 情報・データサイエンス・AI パッケージは令和 2 年度開始のため、本教育プログラム修了者は在学中で、修了者の進路、活躍状況は未定である。産業界からの視点については、数理・データサイエンス教育教科拠点コンソーシアムが作成されたモデルカリキュラム（リテラシーレベル）と同じ Web サイトに掲載されている一般情報教育モデル（情報処理学会一般情報教育委員会）に沿うことで、取り入れるようにしている。産業界と共同で教材開発等を進め、また、実務経験を持つ教員を配置することにより、本教育プログラムが、修了者の将来の活躍につながるよう、改善していく計画としている。
- モデルカリキュラム（リテラシーレベル）と一般情報教育モデルに挙げられている全ての項目を、情報・データサイエンス・AI パッケージだけでカバーすることは難しいが、より幅広い内容を扱い、また、受講生が数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解できるように、授業内容を改善していく計画である。

## 3. その他（特記事項）

- 今年度は、急遽、オンラインでの実施に切り替えることとなり、グループワーク等を他の方法で置き換えた。これが、数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させることに影響したとの分析結果がある。次年度以降、オンライン実施とする場合も、グループワーク等を積極的に導入することで、より「分かりやすい」授業とする計画である。
- 参考文献) "2 軸フレームワークを用いた情報倫理教育のオンライン化"、村上祐子、稲垣知宏、大学 ICT 推進協議会 2020 年度年次大会、オンライン、2020 年 12 月 10 日